



## 「ヘビができました。」

南帷子小学校長 堀田 誠

4月に南帷子小に赴任し、「ヘビができました」という声を5回も聞きました。最近ではヘビを見ることがめっきり少なくなり、個人的には安心していました。実は、私はヘビが大の苦手です。ヘビを見ると腰が抜けてしまいます。ヘビの出ない都会育ちなのかと言えばそうでなく、むしろ山に囲まれ、家の周りは田んぼだらけの環境で育ちました。年に2~3回はヘビを見ることができる田舎でした。川で魚をとっていると、川を横切るヘビの素早さは、今も鮮明に覚えています。しかし、ヘビはダメです。



グリーン広場に咲く紫陽花

教員をやっていると、子どもが「ヘビが出た」「黒かった」「あれは絶対マムシだ」などと伝えてくれます。そのたびに出動です。今年は早くも5回も出動しました。それだけ、南帷子小の自然は豊かとも言えます。幸い、全部がシマヘビで毒はありません。しかし、毒がないからといって気持ちの良いものではありません。教員の中には、ヘビの首をつかんで、山にもっていくことのできる先生もいます。本当にスーパーマンです。可児市教育委員会に相談したところ、テレビで見たことがある「ヘビつかみの道具」を買っていただけました。およそ2mほどの長さで、手元で操作してヘビをつかむことができます。不思議なことに、ヘビつかみの道具が届いた後に、実際にその道具を使って捕まえることはないです。可児市の学校で、ヘビつかみの道具があるのは南帷子小ぐらいです。

ある保護者が、「南帷子小の子は伸び伸びしていますね」と話されました。かつては1000人以上在籍していた児童数も、現在は3分の1に減りました。1000人の児童が遊ぶことができるグラウンドの広さがあります。そんな環境で生活できているから、「伸び伸び」と感じられたのかもしれませんが。また、グラウンドの向こう側には「わんぱく山」という文字が見えます。5年生が中心となり、このわんぱく山を使って学習します。20年前は「入山式」も行われ、一つの学校行事として利用していました。しかし、安全面への対応、カリキュラムの変更などにより、規模を縮小して利用しています。多様な特性をもった児童、多様な価値観をもった保護者、そして教員の働き方改革などによって、かつては当たり前のようにやっていたこともできなくなっているのも現実です。

先日、2年生の生活科で『生き物見つけ』をしていました。家からもってきた虫かごに捕まえたバッタ、カエルなどを入れていました。草をちぎって入れたり、砂を敷き詰めたり、何とか水分を確保しようとしていたりしていました。集合した時に虫かごを眺める子どもの生き活きとした眼が印象的でした。自然豊かな南帷子小だからできる学習です。

ヘビは苦手ですが、ヘビが出没するような自然豊かな環境の中ですくすくと子どもが育つことを願って、ヘビ退治に行きます。